


# 水稻「あきたこまち」を作りこなすための7つのポイント

1. 山間部（標高300m以上）に適応する良食味品種。成熟期はハナエチゼンと同じで、8月下旬から9月上旬に成熟する極早生。
2. いもち病常発地には作付けしない。いもち病に弱く、気象条件によって、かなりの被害を受けるので、種子消毒と病害虫防除を徹底する。

| 月         | 4                       |     |   | 5                                |      |   | 6    |   |     | 7            |       |       | 8     |   |   | 9              |   |        |
|-----------|-------------------------|-----|---|----------------------------------|------|---|------|---|-----|--------------|-------|-------|-------|---|---|----------------|---|--------|
| 旬         | 上                       | 中   | 下 | 上                                | 中    | 下 | 上    | 中 | 下   | 上            | 中     | 下     | 上     | 中 | 下 | 上              | 中 | 下      |
| 生育段階・主な作業 | 播種期                     | 出芽期 |   | 田植期                              | 活着期  |   | 分けつ期 |   |     | 最幼穂形成期       | 穂ばらみ期 | 出穂期   | 穂ぞろい期 |   |   | 乳熟期            |   | 成熟期    |
| 主な作業      | 〇〇〇<br>塩種播<br>水子選<br>消毒 |     |   | △△△△<br>元病田<br>肥害植<br>施虫え<br>用防除 | 雑草防除 |   |      |   |     | □□□<br>病害虫防除 | 穂肥施用  | 病害虫防除 |       |   |   | ■ ■ ■<br>病害虫防除 |   | 刈乾燥・調製 |
| 水管理       |                         |     |   |                                  |      |   |      |   | 中干し |              |       |       |       |   |   | 間断かん水          |   | 落水     |

### 1. 健苗育成 浸種を十分に！

- ①種籾の準備：3～4kg/10a
- ②塩水選(比重：1.13)、種子消毒の実施
- ③浸種…出芽しにくいため、十分な浸種と催芽で、均一なハト胸状態に。
- ④播種…時期：4月上旬  
量(ばらまき)：乾籾で100～120g/箱  
浸種籾で120～150g/箱
- ⑤育苗の目標(中苗)  
育苗日数30～35日  
草丈15cm程度  
葉数3.5～4.0枚  
(不完全葉除く)
- ⑥温度管理・水管理  
**苗丈は短いので、無理に伸ばさない。水のやりすぎ、温度のかけすぎは禁止！**



|     |                 |
|-----|-----------------|
| 出芽期 | 30～32℃          |
| 緑化期 | 昼20～25℃、夜15～18℃ |
| 硬化期 | 昼15～22℃、夜10～15℃ |

### 2. 田植え 太植えは禁止！

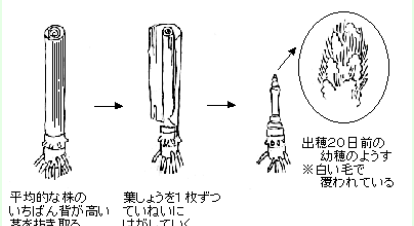
- ①田植時期 5月5日頃
- ②栽植密度  
条間30cm、株間18cm(18.5株/m<sup>2</sup>)  
植付本数は3～4本/株  
※太植えにすると茎が細くなり、倒伏しやすくなるほか、過繁茂となり、いもち病、紋枯病の発生を助長するため。
- ③雑草防除  
地域の慣行に準じて行う。

### 3. 水管理 登熟向上のために！

- 中干しは必要な茎数を確保した後に、7日程度。(6月下旬)  
※根の健全化と倒伏防止のため。
- 出穂後30日間は間断かん水。  
※根の張りが弱く、圃場が乾き過ぎると登熟歩合が悪くなり、玄米品質が低下するため。

### 4. 施肥 倒伏しやすく、いもち病にも弱いので、施肥量は控えめに！

<幼穂の確認方法>



①施肥量(10a当たり成分量、単位：kg)

| 地帯 | 山間部 |     |     |
|----|-----|-----|-----|
|    | 窒素  | 燐酸  | 加里  |
| 元肥 | 3.0 | 7.0 | 4.0 |
| 穂肥 | 3.0 | -   | 3.0 |
| 合計 | 6.0 | 7.0 | 7.0 |

②穂肥の施用  
**穂肥の施用時期でも葉色が濃いので、葉色で判断するのではなく、幼穂長を確認して、下の2つの方法のいずれかで施用。**  
<出穂期の20日前(幼穂形成期)：主稈の幼穂長が2～3mmに達したとき。>  
・出穂期の20日前の1回：緩効性肥料を窒素成分で3kg/10a  
・出穂期の20日前と10日前に分施：速効性肥料を窒素成分で各1.5kg/10a  
平年は、出穂20日前が7月1日頃、出穂10日前が7月11日頃。  
(注)元肥に緩効性一発肥料を使用する場合  
元肥に窒素成分で5～6kg/10a **(穂肥を施用しないこと。)**

③実肥は、絶対に施用しない。  
※玄米の蛋白含量が増加し、食味が低下するため。

### 5. 病害虫防除 いもち病防除を徹底しよう！

- ①田植え  
長期残効型の箱施用剤を施用  
※いもち病・イネミズゾウムシの防除
- ②6月下旬(葉いもちの発生始めまでに)  
いもち病(葉いもち)防除。粒剤の場合は、粉剤を散布するより早めに散布すること。
- ③7月中旬(穂ばらみ期)  
いもち病(穂いもち)防除。粒剤の場合は、粉剤を散布する場合より早めに散布。  
※紋枯病の発生、ウンカ類の被害が予想される場合は同時防除。
- ④8月上旬(乳熟期)  
斑点米カメムシ類の被害が増加しているため、粉剤または水和剤を散布。

◎病害虫防除所のホームページなどの発生予察情報も参考にしてください。  
※奈良県病害虫防除所  
URL <http://www.jpnpn.ne.jp/nara/>

### 6. 収穫 適期刈取で良質米作り！

- ①刈取適期は出穂期の35～40日後(全体の籾の9割程度が黄色く変わった頃)、平年は8月27日頃。適期刈取に努める。  
※刈遅れると、倒伏しやすく、穂発芽粒、胴割粒、茶米が増加し、玄米品質が悪くなるため。
- ②乾燥  
・乾燥目標水分は14.5%。  
・刈り取った籾の水分が高いときは、最初は低めの温度で予備乾燥。
- ③調製  
・高品質の米に仕上げるため、ライスグレーダー(網目1.8mm)で選別し、屑米を除くこと。

### 7. 土づくり 米作りの基本！

- ①稲わらの還元  
田植えの3ヶ月前までに石灰窒素(すき込む稲わらの約20分の1の量)と一緒にすき込む。山間部の乾田では取れた稲わらの半量(200kg)をすき込むが、半湿田・湿田には稲わらをすき込まない。
- ②15cm以上の深耕  
作土が浅いと、枯れ上がりや倒伏が多くなって収量・品質とも悪くなるので、トラクターの速度とロータリーの回転数を遅くして、深耕する。
- ③土壤改良資材の施用  
肥料で補うことのできない養分を補給するため、稲わらをすき込む前に土壤改良資材を施用してから耕うんする。

(生育の目安)

| 播種期  | 田植期   | 最高分けつ期 | 出穂期       | 成熟期       | 稈長      | 穂長      | m <sup>2</sup> 穂数 | 精玄米重          | 千粒重        | 1穂籾数   | 登熟歩合   |
|------|-------|--------|-----------|-----------|---------|---------|-------------------|---------------|------------|--------|--------|
| 4月上旬 | 5月5日頃 | 7月上旬   | 7/18～7/22 | 8/25～8/29 | 76～81cm | 18～20cm | 320～350本          | 520～550kg/10a | 22.7～23.2g | 80～85個 | 82～86% |

注) 1. 水稻奨励品種決定調査(平成10年～14年)のデータから作成  
2. 試験場所：榛原町三宮寺(標高350m)  
3. 栽植密度：17.9株/m<sup>2</sup>(条間31cm・株間18cm)